



2009～10 年度
国際ロータリー会長

ジョン・ケニー

Weekly Report Niigata



ロータリーの未来は
あなたの手の中に

2009～2010 年度 国際ロータリーのテーマ



2009～10 年度
新潟ロータリー会長

小林 敬直

新潟 RC 6 月第2例会 (2010.6.8) No.2851

(1) ロータリーソング「四つのテスト」斉唱

(2) 小林 敬直会長挨拶

南方熊楠

明治維新の前年、和歌山市に生まれた熊楠は、幼少の頃から驚嘆すべき記憶力を発揮する。中学入学前、町内の蔵書家を訪ね、江戸時代の百科事典『和漢三才図会』（全105巻）を数時間に亘って読んで記憶して家に帰り、一字一句違わずに筆写、これを5年かけて図入りの写本を完成させた。

それだけではない。『本草綱目』『諸国名所図会』『太平記』『日本書紀』も同様の手法で完全筆写した。

17歳で上京した熊楠は大学予備門（現東大）に入学、同期に夏目漱石、正岡子規、山田美妙、幸田露伴らがいたが、キノコや粘菌の研究に没頭して落第、結局は退学してしまった。

3年後、20歳で米国に渡って大学に入学するも、泥酔が原因で放校処分、以後は植物採集などフィールドワークに熱中する。

米国滞在6年間で標本データを充実させた熊楠は、植物学会の研究が盛んな英国に渡る。英国では、連日のように大英博物館に通って粘菌の研究を続ける傍ら、天文学会の懸賞論文に出した「極東の星座」がいきなり1位に入選、英国を代表する科学雑誌『ネイチャー』に掲載された。

その後も熊楠の論文は51回も同誌で紹介され、無名だった「ミナカタ」は一躍その名を轟かせた。大英博物館は驚異的な博識の熊楠を東洋調査部員として採用する。

熊楠は民族学、宗教学にも強い関心を寄せ、英・スペイン・ギリシャ・ラテン・仏・独・伊・ポルトガルなど19ヵ国語を駆使して、筆写ノート「ロンドン拔書き」（52冊）を書き残している。

またこの頃、亡命中の孫文と親交を結んでおり、熊楠の帰国後、孫文が和歌山にいた熊楠を訪ね、旧交を暖めている。

当時、欧州では東洋人はひどく蔑視されていた。気の荒い熊楠は人種差別をする英国人を殴ること2回、遂に大英博物館を追放され、帰国を決意する。熊楠と入れ替わるように、漱石が国費留学生としてロンドンに着いたのは明治33年のことだった。

帰国後、田辺市に居を構え、我が国の隠花植物（菌・苔・藻・羊歯類）の目録完成のため、熊野地方の植物調査に没頭する。

また世界の古典文学を読みまくり、ロンドン大総長ディケンズと協力して鴨長明の『方丈記』英訳本を完成させている。

明治39年、政府は国家神道の権威を高めるため各集落にある神社を一村一社にまとめ、日本書紀など古文書に記載された神社だけを残す「神社合祀令」を施行した。

この結果、和歌山では3千700あった神社が強制的に600に統合された。廃止された神社の境内には樹齢千年を超える巨木が数多くあったが、容赦なく伐採され、売り飛ばされてしまった。

熊楠は激怒した。熊楠は「エコロジー」という言葉を初めて使って「生態系を守れ」と、神社合祀を激しく批判した。

この熊楠の自然保護運動に共鳴した当時内務省の役人だった柳田国男は、熊楠の抗議文書を印刷して識者に配付するなど熊楠の活動を側面から支えた。

大正9年、熊楠の抵抗運動が遂に実を結んだ。国会で「神社合祀無益」の決議が採択されたのだ。世界遺産に指定された熊野古道にある樹齢数百年の杉の巨木は、熊楠の反対運動がなければ、我々が現在目にすることは出来なかった筈だ。

南方熊楠がいなければ、日本の神社の数は現在よりもっと少なく、各地の鎮守の森はなくなっていたことと思います。それを思うと今さらながらに彼の偉大さに感銘をうけます。

柳田国男は熊楠を、こう評している。

「南方熊楠は日本人の可能性の極限だ」

(3) 幹事報告（石川 治彦次期幹事）

例会終了後次年度理事会を杉の間に開催します。

(4) 卓話「水の都」新潟の国際化戦略

財団法人亀田郷地域センター

プロジェクトマネージャー 渡辺 徹氏

6月15日の例会予定

会員スピーチ「公共放送の歴史」

NHK 新潟放送局局長 菅 俊 秀 君

ホームページを更新致しました！

新潟ロータリークラブ ホームページアドレス

<http://www.niigataarc.jp/>